

2021. 9. 29

ウェーブ

時評



歴史を映す4枚の画像

田中 均

たなか・ひとし 69年京大法卒。外務省経済局長、アジア大洋州局長、外務審議官を経て(株)日本総研国際戦略研究所理事長、(公財)日本国際交流センターシニア・フェロー。

滑走路を離陸しようとする米空軍輸送機に並走し、しがみつこうとするアフガニスタンの人たち。間違いない時代の変化を象徴する画像になるのだろう。ここに至る歴史を象徴する画像を選べと言われたら、私は躊躇せず4つの画像を選ぶ。①1989年6月の天安門事件。民主化を要求して天安門広場に繰り出したデモ隊に対して人民解放軍戦車が容赦なく迫る1枚②同年11月ベルリンのブランデンブルグ門近くの壁をハンマーでたたき割るベルリン市民をとらえた1枚③2001年9月11日、テロリストがハイジャックした米国民間航空機がニューヨークのツィ

ンタワービルに突っ込んだ衝撃的な写真。そして④それから20年の時を経て、米軍がアフガンから撤退する際の先述の写真だ。これらは一つのストーリーで紡がれる。1989年は東西冷戦で米国が勝利した年だ。中国では民主化革命はならなかったが、ソ連をはじめ東側には民主化革命が起き、ベルリンの壁は崩れ落ちた。そして米国一極体制の幕開けである。第一次湾岸戦争はクウェートに侵入したサダム・フセインのイラク軍を叩いた正義の戦いであつた。イスラム過激派は、これを見

る。そして2001年の9・11。ニューヨークや国防総省を標的にされた米国民のナショナリズムは燃えさかる。武力行使を認める米議会の包括的決議に反対したのだ。たった1名の黒人下院議員だった。9・11からわずか1カ月も経たぬうちに始まったアフガン戦争は、撤退まで20年の歳月を要した。そしてアフガン戦争の途次、米国は再びイラクに対して戦端を開く。今度は、イラクは国連決議に反して大量破壊兵器を保有するとの判断に基づく攻撃だった。イラク戦争は大量破壊兵器を発見できぬまま11年末に終了する。20年に及んだアフガン戦争、8

年が費やされたイラク戦争に米国は8兆ドルの経費を投入し、数千人の米兵死者や30万人の民間人を含めおよそ100万人の死者を生んだと伝えられる。そしてアルカイダをかくまったとして追い出し、たはずのタリバンが米軍撤退とともに政権の座に戻ってきた。イラクの治安も安定しないままだ。ウサマ・ビンラディンとサダム・フセインは処刑され、テロの脅威は大きく軽減されたと言いが、何の

ための戦争だったか。2つの大きな教訓を読み取るべきだろう。第一に、軍事力は抑止力として働くが、軍事力で解決できない問題は無い事だ。第二に、米国の指導者としての正統性は大きく損なわれた。戦争の正統性だけではなく、拷問の存在など道義的な正統性も損なわれた。これから米国は当面、内向きに変わっていくのだから、軍事行動を起こす敷居は高まった。今後、軍事介入を必要とするような事態が生じないよう外交に注力するべき時代なのだろう。

それでは、今から30年後に時代を象徴するような光景が想像できるか？ 私が想像するものは台湾海峡付近で米第7艦隊に所属する空母群が中国海軍とにらみ合っている画像だ。ただ私の見通しではにらみ合いが軍事衝突に向かつていくことはない。グローバリゼーションの最大のメリットとは大國間の衝突は世界の繁栄を大きく損なうのは自明なので、ナショナリズムが燃えさかり非合理的な決定が行われない限り、軍事衝突は回避されるということだ。